芭蕉
其角

二翁正傳

下

へ5
728
2

門 俳へ
部 728
巻 2

晋翁著述目録

田舎の句会　雑句集　枯尾花
虚栗　以津宇昔　芙蓉合
蠢集　花摘集　末芙蓉
新山家　錦繍緞　三上吟
續虚栗　雑詠集　焦尾琴
萩の露　句兄弟　類柑子

なるお
そう
しら

秋の夜
長しの
杉を
まるき
ゝ

烈尺高豊山ぬし

晋子一傳錄

五世　烈尺齋豊山著

摸本其角ハ室晋ヒ句又晋子と号ても姓竹下氏なり板橋い
毋方の姓也父ハ行ハ東順号希子元和ハ主戌江州堅田ハ
おのゝ産る本多下野の守ゝ奉祿を得て医を業とす
後官を辞し東武に来り和歌連歌俳諧を嗜む由良
正春の門人也

類柑子、由良ハ郎左衛門正春と云る人歌連歌ハ有名

や生涯の癖とて家をそこなふ病とて師匠を無人にしたがひ
たてまつりて亡父東順師としてむかしより高文
年中九十の賀をたしなみて家まづしく終ひぬるとやそ

花摘集に正春の辞世の句をもきき
義なれやさい昨日とつの風　正春

日記に妙務尼とあるは享和の頃なり真享四年子卯四月八日
五十七歳にて没す

續虚栗に

四月八日母の年忌にあたりて
家をとりて家このくさ刈りの夕こそ村　其角
初七の狩いとまなくて

年毎に母を思ひ出でて
五七の日追善
初の年毎に母を思ひ出でて　芭蕉翁
香清のこるみづから和の年　其角
色々乃こそ行り夕涼て　嵐雪

各悼

初年忌の脱殼日数こそ　宗沾
母の恋をこそ思ひ出で　松風
有ながく年月よりかなしき　沾徳
物あるこそ佛も友床立　舉白
時八こそ寂しなるこそ佛　嵐雪

友子年法[illegible]のこと　故足
はきりまいあさくさ香々梅ゝ　去来
生新や友子[illegible]風乃吉　捷馬
芥子の花とろ[illegible]つもく同子村　金降
むとくの[illegible]　奥史

花摘集、晋よみつゝの作[illegible]三年のよ[illegible]毎つる
年後よりしよ四年[illegible]
[illegible]
しより彼紙の一[illegible]
[illegible]

のみありひあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

晋子、萩の家松男子、[illegible]の家と[illegible]病床の仏の[illegible]あり葬所妙
勢尼同所芝三丁目上行寺日蓮宗

錦繍緞、芭蕉翁伝を伝ず

東領傳

芭蕉稿

老人東領、板氏[illegible]その祖父江北堅田の農士
竹氏と称す 板氏[illegible]晋子[illegible]
形[illegible]七十歳[illegible]
[illegible]病[illegible]
[illegible]

みとりて大家妙典のうてを[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

晋翁の句ハ名〻淫曲ハよりて〻ハ[illegible]

[illegible]

江町平ハ於てハ[illegible]

の名を星月夜と傾撰せ[illegible]

門よ[illegible]

螺舎と[illegible]

句合 延宝八庚申晋子吟 芭蕉翁判詞

小麒角とも[illegible]

あや〻[illegible]

晋其角と[illegible]

[illegible]

五元集 晋子十七才也是初名ちりめん 螺舎其角と翁よ[illegible]

桃青花仙 延宝五丁巳 芭蕉翁撰

田舎

[illegible]

日記五元集の句ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

類柑子に晋子らの名い野雁とこそ行くまとき比の判みあるこ
渋川と走るすがおとひあいまるまわるり川とよわり昇
竟廣漠野乃牛をおもてこそ廊菴ら同歌をみすめん同
涙ふること出こそ沾洲ら「ゑ行の有の袖とる好嫌わら
川」又同集に名此ら句に「梶かや山吹きくこわるり川」
と俱に晋子を悼こ句あり堀江町を洲春きこい延宝
の末ふこの日記に天和三年芝金地院おに於て虚栗
を英ものこ出ると奇跡考に此日記ちめ二葉をぜて
末をもちこよりて天和三年金地院およ行こるを記ふ
續虚栗編集の須まて今此花ある行こるり句こ草
莽の泉「門の雪掩あ」ゆと彷彿ちり」此句あるを以て証と
ずこ見負享

四年奇跡考に負享の須嵐雪彼笠を晋子と同居をこ
出ると一丁墨土 歌仏尺奇和撰 に今いまもこ嵐雪い義ら糸子い平物
と云こ時真角ら許ふてふとひとつ京拔城
漬こに刷和のふるりいおこ「行きてこつ」に抹さも
笠ら和こと」と砌和のふるるに名平嵐のふるりこ悼を
こ句い則破笠こ尚時い笠中庵笠翁とこり一懐さの
かりの濱に隆達節をあひこ「やふれ笠笠こ」とあるも
破立このりをおこひよせるこの後考をまつ 栢延日記に其角
に川に行こ行こ笠一ト皆ふて壁ら九穴を明ケこ出
義の釈伽をあ義こ孤独ふとつ地獄ひとつのに行を
ち嵐雪ら嵐雪ら富に同居こ二人あこ俗法の不義を

いたづらにとやれいそ、又向島白猿と晋子が川水場
が位置を親しく梅塢きしと梅塢老人の話く 花摘
集 が市の街屋のふきをふと考へ「昔俳諸業打専の
はきうじ」といへる句あるを考へるに全地院あるいつれ
の市中へうつる位ひを求めしかとおもはる元禄三
年のなく いつを昔 が居をうつしてと云て「第五地蔵
あ〳〵まんを籠」とあるをこれい又同年の名をいつく
この時光をふる〳〵 晋子杉の森が旧菴あると柳陳雲の話く
五元集 が神明町へ居を志めてと云て「行会の杉と
あ〳〵そきかをの竹」とあるを考へるに元禄十一年六月
廿日神明町へ居をうつして同年の冬十一月類焼しき

明る十二年の冬あらん 皮篭摺 が六月廿日居を移して竹三
位平を植つゆきをみ影ふかころひ原声あるとして
「仲の埠さらよ絞る時とあり」又 同集 が晋子居を
南港ふうう〳〵竹を植て有竹居と号す 玉海
ふる仲形ふうとて牛寂り「踊りへ」を優より居
て が萩原 豊山云有竹居の号は有竹三畳の称ふをつゆるなる
南港ふうりてとも云い神明町の 黄蘗二公よ心雅を推さうれ知
居をきていひ〳〵 又 同集 が考へるも不深義下句
より上るべき時まてのの白数が四畳の優強まて仕まへいを
義味をいひ中を結るとして「きいつもの為を仕まへい
きぬ〳〵」と句を〳〵とともに有竹居の吟〳〵 此句五元集と和水新宅とあり
浄書の誤か 五元集 が彰尾の吟〳〵「汝汲をうつしてみをせるよの

[illegible]

町へ居をとめられし故業さしあぐ亀

五元集

種竹三竿

竹の色許り引きこまれ

彩宅

竹の場のかたあるべし　岳　徒

類村子

科（イナムラ）の月ひさ

冬中の冬を考る

竹の屈伸形ふ　ゆやさつき閣

焦尾琴の序云夏享甲子の春二月仲旬ふ上京ゆ

日記とふものを元禄戊寅の冬十月廿一日竟

[illegible]

[illegible]

十日のあ[illegible]池奥のつきをひみ及て一巻あ[illegible]

[illegible]上略[illegible]

[illegible]

[illegible]

同集

九尺二間の住たてう所の

[illegible]

[illegible]

晋子歌仙の後と志[illegible]

[illegible]

句をして集の名を焦尾琴とせる蔡邕の故事を

拾遺 捜神記 茅屋流れあるべし

五元集 小鄭焼の仕事部の居を四て一杯の玉を送る人
まとまて〳〵わ〳〵つとや雪の玉あり千とよむ」とゝゝ
て〳〵ひいつれの事部〳〵居を水〳〵あん

類柑子 小物を使る時い才の仮名をあとおりふもはゝう
あの〳〵定保の中とて〳〵西るまゝ世中〳〵れい心の
り知をうゝへて紙の事の高をけゝふる四十まて四出を
見ゝうといる岩雪う高ゝとゝとゝれ〳〵矢を考ふる
て〳〵ひ四若小移仕をゝれ〳〵ゝもおゝとゝ又 同集 ゝ昔四
若の高次小猟人の市をゝて拵の三て羚羊風落光
の〳〵ひをとりけゝ〳〵高へる年小猫を塩漬小〳〵

いゝつゝと〳〵引上てその内よ魚をあつゝる中〳〵ゝ
昔四若の高次ゝ小れ〳〵ゝ方の射あとゝるあゝを
さて〳〵ひ〳〵あゝん方も正ゝ名称件町といゝるゝ猟て
拵うの三て猟落の新ひを高へるあり。子小あとの
あゝうあれいよ〳〵中ゝ高へるあり。子小あとの
北面のよ〳〵十きれき。吉原町二ゝ小あり
晋子ゝ住〳〵い塩ゝゝ塩町〳〵 柳燐云晋子の旧地ハ四谷裏塩町中しき

五元集 〳〵芋や三ゝ高あゝ礼正〳〵」と口ゝゝみ〳〵も
四若ゝ住居の仕の吟高〳〵ん三ゝ高あゝ芋ゝ中〳〵
年拵の正れて中ゝて〳〵へるゝ元ゝ〳〵
この中い町〳〵猟居ゝ〳〵ゝ元禄十六七宝永改元の仕ゝ中

類柑子 全篇れ〳〵ゝる中ゝ病小ゝ〳〵ゝ〳〵ゝて〳〵ゝ高新

のこゝろみとあり
ぬ嵐雪松風沐浴青流とひとりてう
これの反古とりあつめ
おさむ
ちれとつとめ
あり秋色といふよの女
ふさ
ふ
ふ
ふ

類柑子 編集孫〳〵さる時みず
明〳〵晋子を俳ふ
おとらず

五元集 自悔の句
といひ〳〵三十年の

同集 娘の死まうしを悼む句
と被され
めず

類柑子 春暖閑炉に坐の吟
うぐひすの
笑の
茅の
ぬ
身を

キ角
、
青流
、
角
流

豊山云 丹三店 後代の宇迦則の沿革と晋翁の句已よ

乃の跡大学助よし立ゆゝて　角
洞はゝ　刹いそつゝら　流
きつゝ流ゝのまゝあるよあふれ条崎　角

一序文の刹は晋子ねふさきれゝきふてわゝれぬこれ
そ生前おさめの吟くいまゝひあいきれい其鳥より
しひうふ秋の気を感しゝ来の句は童虞祥ふの九条
詩のふ親は牙まう孤ひゝ水中の天の一句古々
冬節の熱をつゝ風梁家庚の気りはゝ
古友の撃りをおゝひ出ゝきゝはゝ去つきゝよゝ

云い新桂子は書陳されゝとこゝあくおの色
晋冬を墓ふの古云切ふふいをあゝ先孝
養ふゝ一世の中ふをゝいをゝ
云英云をつゝ陳るのゝ

類桂子と比所ふ年久しゝ伝別ぬおとゝまゝぬふ獲
の渡まゝと秋を冬ゝ年の力ふゝゝ云て白橋ら
「新まれぬ岩の引ふ二月ふ兵」と悼ゝ白をりつて
このやい町伝花の伝才まうしゝふ明ゝゝ宝永四
丁亥とゝ二月廿九るあゝき年四十七 伝潜亦譜 五十五ふ
法号つゝふ二本樓上行ちの墓下芸のあゝゝ

あらぬ五元集に「我死て拙柳うすき酒入のむ
きめかな我のあひたの」と口まねしい生前の辞世
あり ふ〳〵きやきの時よあるるを於生る
感あり 南無仏堂に「ひさの白髪をさひうる宗匠」の白
晋子形をひよおてく〳〵 日をるてるあせらるれい晋子ふと拝て
まるく〳〵ふ色赤服をとりて「多之や田をとめ
ゑりの秋あり」と云ひとさて是を悲しる面
声をくつうををうに新をうてあるるるもの
あるるあるるる金葉集に雑周法ばるる「てのの
あいんふて せきるせ天ゑるせ神あるい神」

此歌をくれるものあるんおい元禄六年六月廿日の
るあるとて一気のるつるとる生の業るとる熟
よるきる体心の感く

是吉ゝ事

周に云ふ晋子は仕へ〳〵元禄のるあるるのるとと
おもいる花摘集に尚年をるる竜ふきくきる才の孫ゝ
るるつきるやあるて せめられい言下て
仏をもあるん 是あるる 芭蕉

此段古今元録の文なり 仁和寺の僧正覚忠
編集い元録三年く

未若葉

二月去日花橘の別れを入醫門を聚守
初年より猶の花なりし所 所 翁

同集

製 白磐

所磐のふい〳〵ふる火達い 是橘
北枳南橘の〳〵〳〵の〳〵醫ふ術を
習ひ手ら伝授をつゝ北白をつゝ毋〳〵逆の
わ〳〵〳〵〳〵ふ〳〵ふ〳〵〳〵〳〵

錦繡緞

[illegible]　真角奴　是去

山[illegible]　柴車奴　一七

[illegible]　尚白奴　与三

[illegible]の春　仙花奴　吼雲

今世諸名家詠吟

京　蒼軋

[illegible]の[illegible]

[illegible]

世南

[illegible]

大坂　奇渕

[illegible]

武陵

[illegible]

沙鴎

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

岐臺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　篤笠
[illegible]　　詠帰
[illegible]　　護物
[illegible]　　何丸
[illegible]　　久臧
二歩　[illegible]　　碓嶺
[illegible]　　一具
雪の樗　俳[illegible]　　萬里
[illegible]　　一蕙
[illegible]　　茶静
[illegible]　　文屋

あ[illegible]　　園角
町中は板塀あり　桐[illegible]　　風馬
笹の葉乃ふ[illegible]　　史子
[illegible]　　老驥

[illegible]　　豊山
[illegible]　　〃
淋[illegible]　　〃
[illegible]　　〃

日く醉　如泥

花村に市の孫をあたらしん　共角翁

七宝うるはしきかたをふまんや　豊山

白玉ちいさき門をあらためん　詠帰

焼て新のうるはしき　豊也

庶の南うるはぬ紙の春の中　老驥

第一の春と春ふまるる　豊九

法師ぬとこの孫をまもる　閑逸

新しうまもるべくうる　文和

うるはしを玉まるの春をくうれ　山

春の場をとり十五年をまもる　驥

うるはしく花年杯をとり　鳳車

悼し花をとり起しのまま　豊瑞

動きも一見に杖を端よん　帰

河をとりてあるべきの　山

小口をもとの内侍をいたれて　也

春に向ひて春の永　逸

山吹と馬酔木を縄を引かんも　豊園

オ

[illegible]也

味噌漉す汁の笠の蓋にて

[illegible]九

[illegible]安き業より為すを新系

物[illegible]車

[illegible]瑞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]和

[illegible]山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]帰

[illegible]

[illegible]

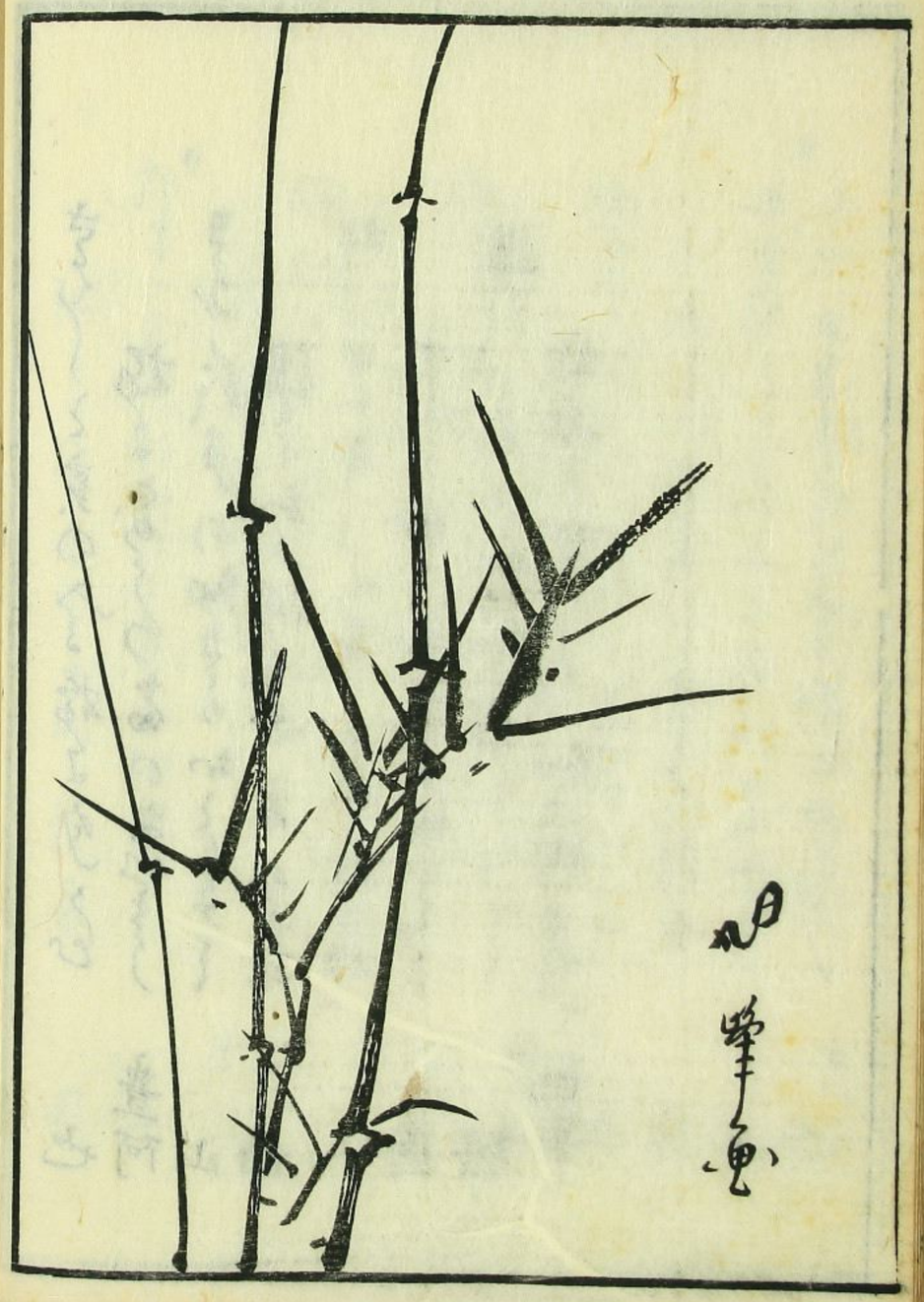
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



世良尾亮文輯
茶湖尾芝白校

ちせなる
春の訪
えらん田ものはるを花
らむたにふるを春の
うめうたりの春の山路

ひさしきを百年にかぞへし梅の花
笠や柳はうしろ姿の雨
笠やうちに書よむ梅の花
かゝる時の杖をつかもの淋しき夫
かゝかたに折しをみさを柳哉
八九百こゝに雨つゝみよな
ぬるゝ色やむ時ぬやの淋月
かゝへ来ぬやしきしの梅柳

六

さゝる命哉時の雨つゝみやの漏
雨はさゝやかまの雨さゝ
かれ花やまさかきの長十二寸
よらんかきらふこゝろ
ふる池やかゝいつ雨もの音
まゝ柳の泥をこゝ汐干哉
もゝをを時しぬひをめうな
さゝ中や雨つゝ雨ひをめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屋ねさを併ふくしてふのもれ
ゐる家屋の人を禁ずる事なれ
ば月や星もなく暗し山
さとの世も稀の木陰あり雨も
なき

秋

七夕や秋をこころはすの夜
みな月や六つの祓ふと恒星

星の海や彼岸に橋さしたる川
いなつるや雲の月の夜の雲
乃ふへの木陰を出て時雨ふり
岩本撞裸市にかくしこの夜
ちつゆをこの花の露の月
稲ふめる家に市所
名月や池をめぐりて夜もすがら
三井寺の門に鐘ふる月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

み
神たちの御はかりにて
ひとつの事にて
なんとかの
たちの
法師の
ねがはくは

夢ゆ[illegible]みより除むけはしら
[illegible]
天ぢ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

玄蕃嵐雪

春の部

初市や烏をはなる牛の鈴
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さざなみや志賀の大わだ漕ぎ隠れ
昔語りの舟人の
酒くさき人にかたるこそあはれ
おぐりや知らぬ世のあさき
風ふきつる夕ぐれの空の山
雲を分け行くみちのくの
月をあなたにながめやる
白てうの酒をはらむ空の山

文

法華経の書写すること
仏法僧に
ふたつなかれ
不信の信をもちて
り法を月の
古歌にあり
華や四人の墨くろのうつ
竹のうやかりねの隅

なめらかなる三つの山々の古墳
ちらばりたるもの[illegible]に[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]国[illegible]
沢深[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋

[illegible]風の[illegible]
[illegible]の[illegible]の風
[illegible]の[illegible]の[illegible]
七夕やかも川わたる牛[illegible]
[illegible]軍[illegible]
[illegible]の秋[illegible]
[illegible]

角力を見物せんとて桜の座敷を
九月中御の格を宮くふく
九月中蟬とりとて
まさしく打をたちかの月
九月中恋わすれ路の契
九月中ぬしをうらをかく
立ぬうしろ姿の名残
ねぬ〳〵見もせぬ書

新吉原の仕来り
聞ぬ恋物語新を強
者の格中新吉原の呼出
まさしく東をあの方へ
東深中まさしく鉦の音
ひびくかの恋中まさしく格子
格子の黒ぬれて格子

みち

[illegible]

風の絶て[illegible]

[illegible]

[illegible]

門のゆき[illegible]

世[illegible]

今[illegible]

春の部

佛幻菴丈艸

うぐひすや茅の末葉の朝日哉

[illegible]

引[illegible]

[illegible]

大[illegible]

朝[illegible]

生ふる人の見し桜なむ散る桜
春の悔の思ひ出やいかにらん
雲居の春ぞ恋しかりける
木つたかに桜をさうす恋の中
行末をこそ思へ思ひ
恋の色や恋の中ゆとなる
小夜ぬきやうの下
角入る人をかしらや恋の友

かなかの中
三月や春の恋
行春の恋
夏
かるまの鶯や桜に桜さう
茶の湯の花の風の部
筆の跡を鶯のなかれ
何ぞや御のさし

さねつるを堀のりあや杜こゑ
屋の梅ゝ春を待ゝ鶯の
白雲はけつるや年の曙
みえて西ゝ月や杉のこゑ
春も宵ゝ中や空の雲
風ゝ絮ゝ雨てらるを時々まみ
つゝゝゝ帆ゝなる秋や海ゝ

世界に第一と日本可那
峰さまざまに国さまざまも深し森の形
小さき所をうらなす為の事
世界の形うたてわう樂なる
ゆり来る事は栖や家毛築
樂しき事や楫のかぢ艪・櫂
なすれの舟に寝乃如きなる

一方世界のまろ毛こと
正みなり沖のまろれのり所
やはり海を加りかまろ毛かな
岸戸口より江に出るちとわる毛
ことわりもこしらし数に乗の自
然さを深ねも思ひ出ること
四方と地さまざまを陸毛
新に作りつや事おこも家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あれまたはこの結びつや蓋の
旅人の袂はつゝ寒るうつゝな
大原千年代の松や角力取
悔れしこゝろ角力取
人新ばしらはこゝぼ合ふ
名月や鶴つゝる笠かと
ねる人を寝ぬ人はよるの
もう寒行風うもゝ鶴が来

れはやいろのの中に柿みる
あれはさへ一行あるゝ
ゝ蕎一件やに
畠かゝ
詩を見る目
さうれを時雨
笠去 寝ゝ流ゝ

みそ

こかしはの一ちかくみそよりめ
はるゝ時ハ乾さきの我ハ孫すかし
二筋さきあるなるべし　みの仙家
ゆかりゝ是一枝やつり合せ
みそ人ハ部や詩人へのかゝり
系かつゝ待なるや雪ぬめ
孫元に我庭ハんせむうれしい

妻の部

義拾舎吉来

万葉やたちたひらのくまのゝ
竜ゝ家にかもゝ焼る老乃神
えらひやゆつりたカ筆む
身雪ゝめるもゝ門の松
ゝもめねもよゝえゝむ初のゝ
ゝ陳ひらの片ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋

うちなびく野もせの門
さかりをば秋はあれども
庵の内にかもとりあつめ
ぬるかなる秋の月の角かな
朝ごとに秋はあれども
踊りをば角にとりつめ
飛ばすれば角もさき

男女共に家もひろく月の出
の方をば秋はうとしと思ひ
家のかたちに秋はせしに月みれ
ばいとゞ秋は悲しきものかな
秋の月小男にとりて角
小男共男共踊りをるものまき
踊共をば秋のまよりたんなり

みち

琴ぬものいはぬ絃ひぬはつくし社
きゝもしたにこゝろはゆるなる
時雨にさし合ふ村のさゝれなる
ぬるゝとゝ[illegible]しあやみちもめ
[illegible]ぬるゝ屋のもしこゝろ
野嶋やをすてゝ十五年
意とといへとゝ[illegible]乃門

十六

九[illegible]なれぬ言の葉ゝ小
しひ人のあをを百てゝ[illegible]の初
[illegible]新[illegible]
[illegible]門[illegible]
[illegible]
[illegible]

寶晉齋其角

春之部

角田川隅田川なれわかれつみ
なつくさ桜のさけめや 梅花
梅さくや色香の家も咲ぬ
花ちるや物の落葉の浮世
ちるや秋ぬ春を旭やの
うぶ山ゆ徐に咲る春の景

義入や一つもあるこゝろや筆
仏光や小磯の松も影うす
こゝ見をまとふ猫やまとれ中
家ゆこ城なる所の星の数
くくまと新かく紙の距かな
常ゝ沈や沈る春ゝ
仏生や桜ゝ地やうかはゝ
ゝ乳ゝ人よ家 乙

文

禁ちゑかまの花を見るまま
夫よりしばらく物がたり聞
ゑたるまゝ画も梅花の部に
一とゝろに拾ひなるべき事
法師や拾ひ物にもあらず
屋敷の美しゆゑ相の谷
風の梅の木にもかむこゝろ

杜鵑たゝみたるこゝろ
ばかりの物もあるかまつぼ
美ゆゑ物まるかゝる
汁鍋に笠ばかりの黄丸
野につゝまれ一ゆゑまるの松
葉の葉や重なりかゝるいと菴
のゝ下ぶり海の寄に底ゆゑ
よりやせし河の松ぬ中千

すてんや本ぶくろかもくこうの
り新や白よ新坊ねよ利
ゆえや手ぶくをかる傀儡師
いものまんをつむぼたん
四海に新ぶ酬あまやとろろえん
新を卵ゑ
涼しさや新くまみ系
せみ啼や帆に新ぶのちし蚊

十九

秋

秋月や ひとり月よ姫の
笹ぶくを枕つけてやもむかえ
七夕や梳編呼入る笹を中
ひとりとさ吉四月新四月
桃線や春のうさぎ本の坊
いもの鬼ひとしなひる涼新
打ぶく坊ゑやり辻角力

名月や夜の上手に杉の梢
本無き人の名ばかりなる月
名月やかくやくまれし神仏
名月や五百石とも知れぬ月
名月や月見ぬ人のなかりせば
秋の空屋上の杉を残れり
すむ月や鐘をとゝまらぬ
鐘をつき月に明るの月
大

新月のまゆみ
村もみち落葉をはらく白雲
小男鹿や細き声より出る流
名残りしらぬ名残の雲

みな

神垣や深き紅葉の
ぬきもあらぬ織錦菊
きりもあらぬ赤ぬる朝明

[illegible]やうなしまむすび[illegible]
山おろしの風おそろしく[illegible]
[illegible]かりや網をぬきて[illegible]の[illegible]
[illegible]ぬきまきつゝ網代の
[illegible]川や筏代のすゝ[illegible]
[illegible]乃市[illegible]を[illegible]むの織よ
[illegible]の[illegible]川かぜ川[illegible]

2